

CONTENTS

産業保健ストラテジー シリーズ

第2巻 健康診断ストラテジー 目次

ストラテジーシリーズ緒言	v
はじめに	vii

第1部 健康診断の意義と背景

1章 産業保健と健康診断 森口 次郎

健康診断の目的と活用方法を労働者・企業・産業保健職の立場から詳細に解説する。

1.1.1 健康診断の意義と活用	4
1.1.2 産業保健における健康診断	8
1.1.3 諸外国の健康診断と日本の特徴	14
1.1.4 これからの健康診断	16

2章 健康診断の法的背景 田原 裕之

正しい法令理解を基礎に据えることで、活発な産業保健活動が可能となる。労働安全衛生法をはじめとする法令の背景・特徴に迫る。

1.2.1 労働安全衛生に関する法体系	22
1.2.2 健康診断に関する法体系の特徴	25

3章 一般健康診断および関連する健康診断 川崎 能道

職域における一般健康診断やその他の診断の検査項目やその目的を詳述する。

1.3.1 職域における一般健康診断とは	40
1.3.2 職域における一般健康診断の実際	41
1.3.3 一般健康診断に関連するその他の職域健康診断	45
1.3.4 特定健康診査制度との関係	47
1.3.5 一般健康診断実施における留意事項	48

4章 特殊健康診断

坂本 史彦

有害要因対策における特殊健康診断の項目・目的と、その事後措置の要点を解説する。

1.4.1 特殊健康診断の目的	52
1.4.2 特殊健康診断の企画に必要な知識	52
1.4.3 特殊健康診断の企画	54
1.4.4 特殊健康診断の実施	60
1.4.5 法令等で求める特殊健康診断の実施および報告	66
1.4.6 最後に	68
付録資料	69

第2部 健康診断の企画

1章 健康診断の企画と評価に必要な疫学

藤野 善久

健康診断結果を有効に活用するために必要な基礎知識を知る。

2.1.1 はじめに	84
2.1.2 健康診断の意義	84
2.1.3 スクリーニング	86
2.1.4 サーベイランス	93
2.1.5 費用便益と費用効果	96

2章 健康診断の企画

志田 三四郎

企業実態に応じた健康診断の企画と運営方法など、実務について包括的に学ぶ。

2.2.1 健康診断企画の流れ	102
2.2.2 健康診断の実施方法	102
2.2.3 健康診断の受診対象者	105
2.2.4 健康診断の検査項目	108
2.2.5 健康診断における問診項目	109
2.2.6 健康診断における考慮事項	111

3章 法定外項目

立石 清一郎

法定外項目は機微な情報であり、実施と結果の取扱いには様々な配慮が必要となる。それらの注意事項について具体的に詳述する。

2.3.1 法定外項目とは	116
2.3.2 法定外項目を職域健康診断に導入する際の注意点	117
2.3.3 人間ドック利用のメリットとデメリット	121
2.3.4 採血により頻繁に追加される項目	122
2.3.5 肝炎・HIVなどの感染症検査を導入する際の留意点	123
2.3.6 結核の接触者健康診断	126
2.3.7 がん検診について	127
2.3.8 その他の検査項目	133

4章 健診機関の選定と関わり

日野 義之

健診機関の選定は、産業保健活動全体に様々な影響を及ぼしかねない。良質な健康診断を行うための健診機関選定の留意点や契約方法について概観する。

2.4.1 健康診断の外部委託に当たって	138
2.4.2 良い健診機関の選定	139
2.4.3 健診機関とのコミュニケーション	143
2.4.4 委託契約の見直し	145
付録資料	147

第3部 健康診断の実施と判定

1章 健康診断の準備と実施

櫻木 園子

良質な健康診断を実施するためには、健診機関の選定に加えて、様々な事前準備が重要となる。具体的な留意点とは何か。

3.1.1 健康診断の事前準備	154
3.1.2 健診会場の準備	158
3.1.3 健康診断の実施	161
3.1.4 パニック値の取扱い	165

2章 健康診断の質の管理と精度管理

山瀧 一

産業保健活動の基盤となる健康診断で得られた情報の精度管理に必要なことは何か。

- 3.2.1 なぜ質の管理が必要なのか 168
- 3.2.2 サービスの品質管理 172
- 3.2.3 精度管理 177

3章 健康診断に関わるスタッフの育成

山瀧 一

健康診断の質や精度確保のために必須となるスタッフの能力の向上と育成について把握する。

- 3.3.1 健診機関のスタッフの教育 186
- 3.3.2 保健指導スタッフの教育 188
- 3.3.3 医師の診察・判定業務について 190
- 3.3.4 接遇について 193

4章 健康診断の判定

山瀧 一

個人および集団を正しく評価し、対応方法を策定するために基準となる健康診断の判定。その質を高めるために必要なこととは何か。

- 3.4.1 健康診断の判定の前に 196
- 3.4.2 一般定期健康診断の判定の流れ 200
- 3.4.3 主な健康診断項目・グループの判定から総合判定へ 203
- 3.4.4 特殊健康診断の判定 209
- 3.4.5 判定をめぐる話題 213

5章 健康情報システムのあり方

佐々木 規夫

健康診断結果の活用のために不可欠となる健康情報システムに求められる機能、また運用者に求められる事項とは。

- 3.5.1 産業保健活動と健康関連情報 216
- 3.5.2 健康情報システムの構築と維持 219
- 3.5.3 健康情報の標準化 222
- 3.5.4 産業保健に特有なシステムの要件 225

3.5.5	健康情報のデータ保管・保全	229
3.5.6	健康情報のデータ交換	231
3.5.7	産業保健特有の守秘義務	233
3.5.8	戦略的なシステムの構築を目指して	234

第4部 健康診断結果の活用

1章 結果報告と保健指導・受診指導

中谷 淳子

健康診断結果を活かすために必要となる保健指導の在り方を詳述する。

4.1.1	健康診断結果の報告	240
4.1.2	健康診断結果の本人への通知	240
4.1.3	健康診断結果に基づく保健指導	242
4.1.4	効果的な保健指導を行うために	251

2章 健康診断結果に基づく就業上の措置

上原 新一郎

健康診断結果を活用し、安全配慮義務を履行して行われる就業措置とは。

4.2.1	就業上の措置の基本事項	260
4.2.2	健康診断結果に基づく就業措置の実際	263
4.2.3	今後の就業配慮に関する課題	265

3章 集団としての評価と企業の健康向上戦略

小田原 努

個人を超えて有効活用される健康診断結果の集団分析とは何か。

4.3.1	ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ	268
4.3.2	健康診断結果の集計の基礎（統計学的な解析のためのツール）	270
4.3.3	健康診断結果の解析手法の要点 （性別や年齢、職種・職階・所属部署ごとの集計、年齢調整など）	273
4.3.4	健康診断を利用した企業の健康向上戦略	283

第5部 リスク管理

1章 健康診断の倫理と情報管理

川波 祥子

有効活用と相反する機微な健康情報の機密保持。これらを両立して展開するために把握すべき知識を学ぶ。

5.1.1 個人情報としての健康情報	292
5.1.2 プライバシーと個人情報の保護に関する法令、ガイドライン	292
5.1.3 倫理指針に基づく労働者の健康情報の取扱い	298
5.1.4 職場における健康情報の保護と利用	298
5.1.5 健康情報の保護以外の健康診断における倫理的問題	311
付録資料	316

2章 健康診断のリスク対応

武藤 繁貴

受診者、医療者、集団など、各々の立場から見えるリスクとその対応方法を知る。

5.2.1 リスクとリスクマネジメント	320
5.2.2 受診者の健康被害	321
5.2.3 医療者の健康被害	330
5.2.4 集団感染のリスクと対応	332
5.2.5 健診に伴う幅広いリスク ーインシデント・アクシデントレポートの活用を中心にー	335
5.2.6 リスクマネジメントの進め方	340
キーワード索引	345